

環境報告書

1. ご挨拶

近年、強い台風や集中豪雨、干ばつなど極端な異常気象による災害が世界各地で発生し、多数の死者を出したり、農作物に甚大な被害をもたらした。日本国内でも集中豪雨などで大きな被害が発生しています。今後世界の平均気温が更に上昇することが予想され、地球温暖化対策は待ったなしの状態となっています。

当社は、電力などのエネルギー削減と効率的な生産などの対策を継続的に取り組むとともに、CO2排出量削減対策を推進してまいります。

環境保全活動は、将来に良好な自然環境を残す重要な活動であり引き続き社会に貢献し地域に信頼される企業になるよう、全社を挙げ取り組んでまいります。



代表取締役社長
荒木 恵司

2. 会社概要

- 【商号】宇都宮機器株式会社
- 【創立】1953年(昭和28年)10月
- 【本社】栃木県宇都宮市雀宮町585番地
- 【清原工場】栃木県宇都宮市清原工業団地18番6
- 【資本金】1億円
- 【売上高】2018年度:79.6億円
- 【主要製品】ニードルローラーベアリング等
- 【従業員数】466名(2019年4月1日現在)
- 【ISO14001認証取得】
取得年月:2002年8月 認証取得
認証機関:日本品質保証機構(JQA)

3. 環境方針

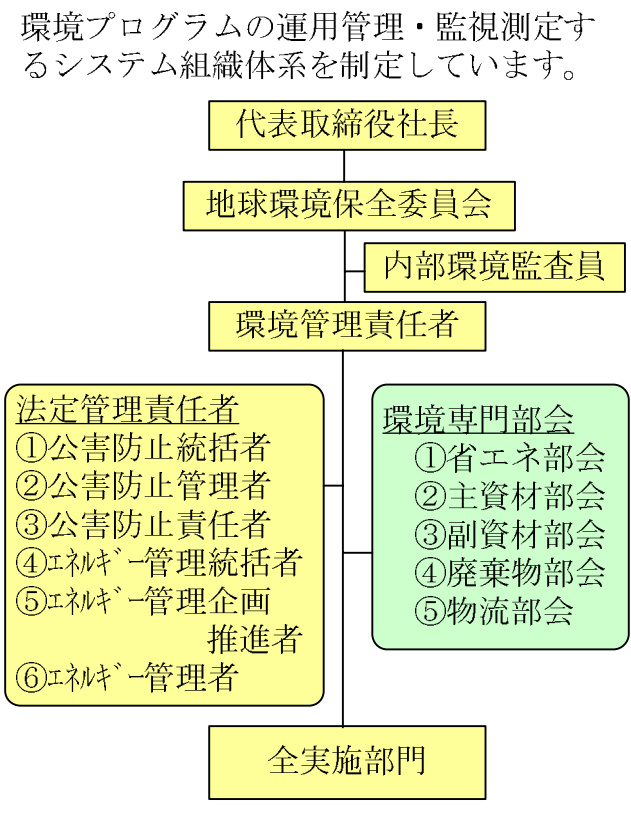
環境基本理念

緑濃い日光連山と鬼怒川の清流に恵まれた宇都宮機器株式会社は、この地域のかげ替えない自然との共生をめざし、「地球規模での環境保護が企業の重要な使命の一つである」ことを従業員一人ひとりが深く認識し、自らの事業活動及び製品のライフサイクルを通じての環境負荷をゼロにすることを目指し、内部及び外部の課題を含む経営戦略に応じて自主的かつ積極的に地球環境保全活動を推進する。

環境方針

1. 地球環境保全上の技術的・産業的ニーズを的確に把握し、軽量・小型・低トルクを併せ持つ究極の針状ころ軸受を提供することで世界の省エネルギー・省資源化に貢献する。
2. 事業活動と環境を調和させるために環境管理システムを確立し、環境問題を継続的に改善する。また、仕入れ先への協力を推し進める。
3. 事業活動に関連する環境法令・条例・協定およびその他の要求事項を順守する。地域環境との融和を図り環境保全の維持改善を行なうとともに環境汚染の予防に努める。
4. 製品のライフサイクルを軸とした環境管理活動を行ない次の項目に取組む。
 - (1) 消費エネルギーの削減
 - (2) 産業廃棄物の削減
 - (3) 主資材・副資材の削減
 - (4) 包装梱包資材削減および物流効率化
 - (5) 環境負荷物質の少ない原材料の調達及び製造段階でのCO2、廃棄物、化学物質等の管理、削減
5. 関係諸官庁・地域住民とのコミュニケーションを図り、地域社会の生物多様性の保全及び生態系の保護による自然との共生社会の確立を目指す。また必要に応じて、環境管理活動の実施状況について公開する。

4. 環境管理システム組織体系



製品紹介



スラストタイプ
ニードルローラーベアリング



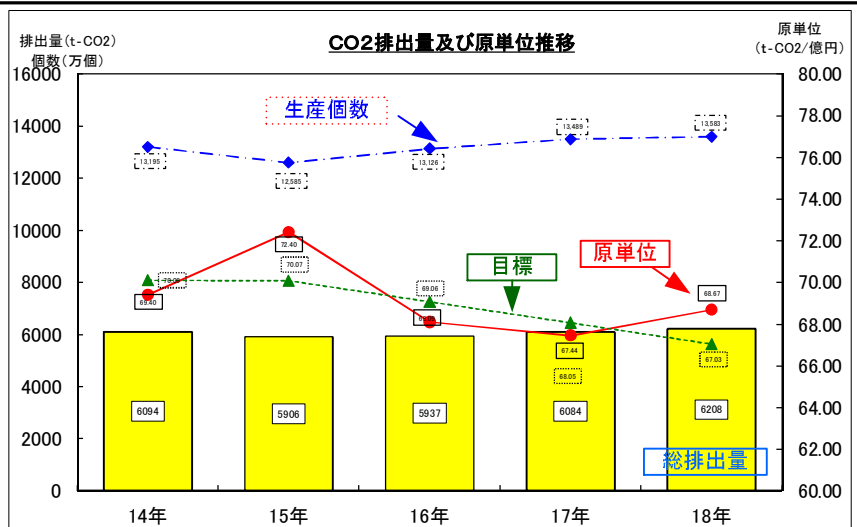
ラジアルタイプ
ニードルローラーベアリング

5. 環境目的・目標

環境専門部会	環境目的		2018年度目標 (前年実績削減率)	2018年度実績	前年度 評価
省エネ	電気/ガス/燃料/油使用量の削減	エネルギー	1.0%	▲1.2%	×
		CO2	2.5%	▲2.4%	×
主資材	主資材の使用量の削減、再利用,再使用		0.5%	2.6%	○
副資材	副資材の使用量の削減、再利用,再使用		0.5%	0.7%削減	○
廃棄物	廃棄物	廃棄物の減量化・発生抑制・再資源化	0.3%	0.5%	○
		廃棄物の再資源化	100%	100%	○
		廃棄物の適正処理	100%	100%	○
	環境改善	水質騒音振動の管理	100%順守	騒音	×
		環境負荷物質の削減	1%	1%	○
物流	包装梱包資材の減量化、再利用促進 運送便の積載効率の向上		1.0%	▲8.7%	×

6. 地球温暖化防止活動

- ◎地球温暖化防止のためCO2の削減に取り組んでいます。
- ◎18年度、CO2総排出量は、清原工場竣工に伴い使用電力が増加。前年比2%増となりました。



《注:実績は、年間の最大値を記載》

7. 環境データ

◎法的基準より厳しい自主基準を設定し、測定結果はトレンド管理して異常の早期発見と対策に努めています。

単位:騒音(dB(A)), 振動(dB), 水質(mg/L)

	測定時間	本工場		清原工場	
		規制値	実績	規制値	実績
騒音	朝(6~8)	50	50	70	55
	昼(8~18)	55	51	75	57
	夕(18~22)	50	53	70	56
	夜(22~6)	45	48	65	57
振動	昼(8~18)	60	48	75	47
	夜(22~6)	55	42	65	44

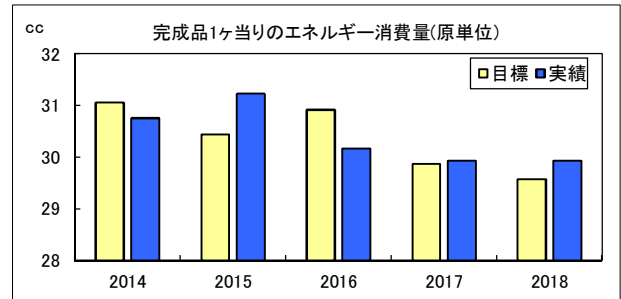
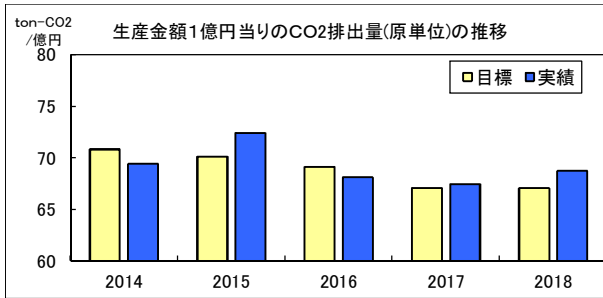
【水質】毎月

測定項目	法規制値	自主基準	測定値	評価
PH	5~9	5.5~8.5	7.8	○
総クロム	≤2mg/L	≤2mg/L	<0.1	○
六価クロム	≤0.1mg/L	≤0.1mg/L	<0.04	○
n-Hex(動植物油)	≤30mg/L	≤15mg/L	10.3	○
n-Hex(鉱物油)	≤5mg/L	≤3mg/L	<1.0	○
鉛	≤0.1mg/L	≤0.1mg/L	<0.01	○
鉄(溶解性)	≤3mg/L	≤3mg/L	1.0	○
亜鉛	≤2mg/L	≤2mg/L	<0.1	○
銅	≤3mg/L	≤3mg/L	<0.1	○
亜硝酸性窒素	<380mg/L	<380mg/L	14.8	○

《注:実績は、業者測定年間の最大値を記載》

8. 環境専門部会の取組み

省エネ部会



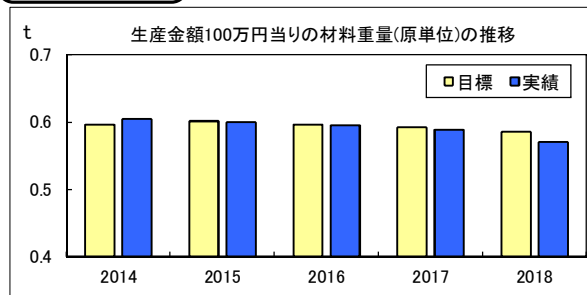
【電力使用量の削減】

- 洗浄水加温をヒーターからヒートポンプに変更
- 変成炉省エネタイプ更新(写真1)
- 休日の工場エアコン風量見直し
- 熱処理炉の計画停止

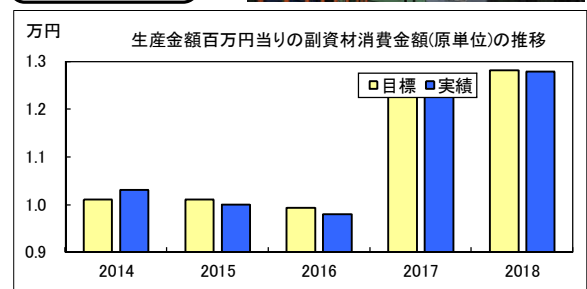
写真1: 変成炉
省エネタイプ



主資材部会



副資材部会



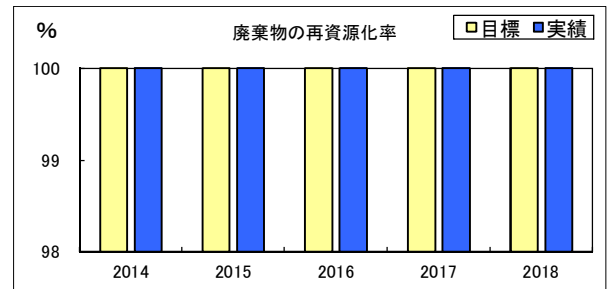
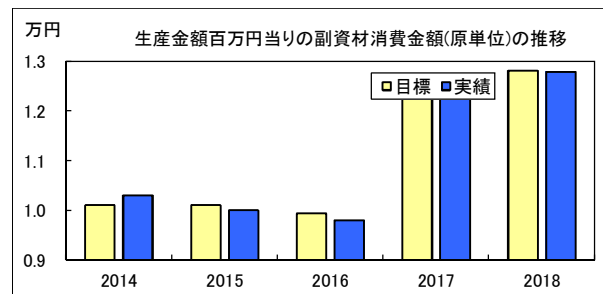
【材料使用量の削減】

- 材料の歩留り改善(材料幅短縮)
- 溶接保持器/スラストレース不良削減
- 抜きカスの再利用

【工具材料使用量の削減】

- 材質変更によるダイスの長寿命化
- 治具形状変更による寿命向上
- 副資材の購入費削減
- ※2017年度より管理項目見直し(ソルト等)

廃棄物部会



【廃棄物の適正処理】

- バレルメディアの社内利用(写真2)
- 混載コンテナ品からの有価プラスチック分別強化

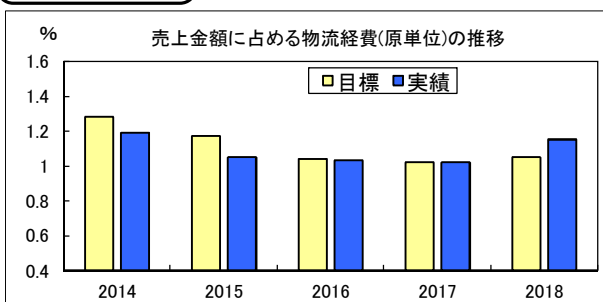
【工場敷地内外の環境整備】

- 工場敷地内外の草刈り・除草・ゴミ拾いによる美化推進

写真2: メディアの社内利用



物流部会



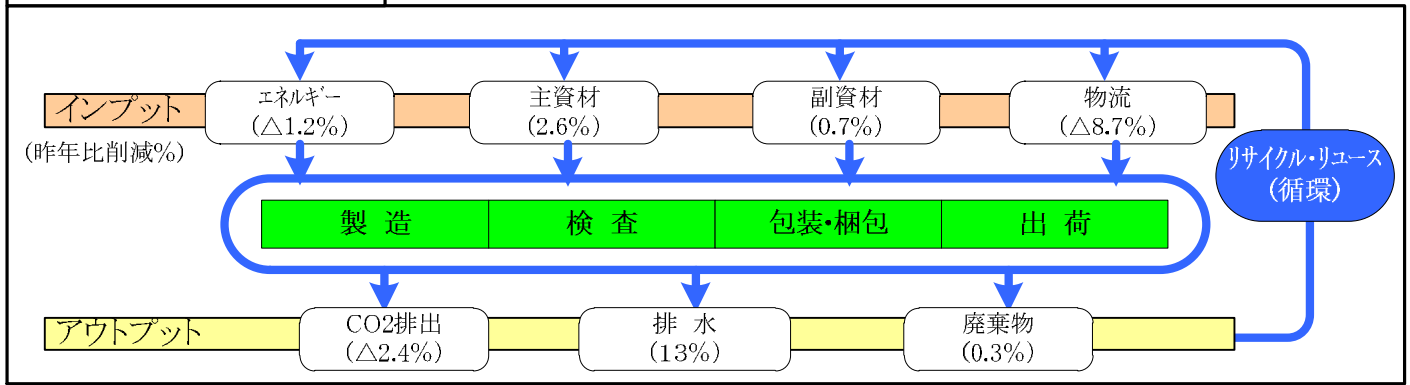
【包装梱包材の削減】

- 荷姿変更/詰め個数増量による包装梱包材の削減

【運送費の削減】

- 生産効率向上による特便費の削減

9. 環境負荷の全体概要



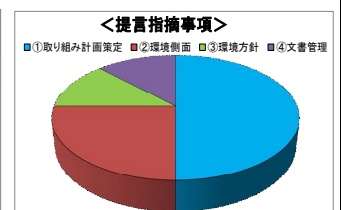
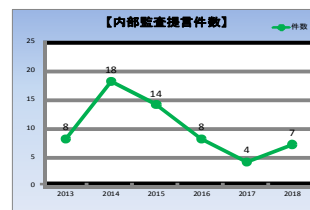
10. 環境監査

◎システムの有効性、環境パフォーマンス、順法維持を定期的な外部審査、内部監査で点検、是正を行っています。

外部審査

- ◎ISO14001を2002年8月に認証取得し、2017年6月には15年度版への更新を完了しました。依頼、定期/更新審査を受審しています。
- ◎18年度の更新審査では、改善の機会(改善が望ましい)が7件あり是正を行いました。

内部環境監査



◎審査前に内部監査員の教育し、計画の達成状況や緊急事態訓練の実施状況の確認に重点をおいた監査を実施しています。

11. 環境会計

【2018年度】

(単位:千円)

◎地球環境保全に関する費用と投資額および効果を明確にして、環境保全活動の効率化および意志決定に活用しています。

(注)効果には推定的効果は含まず △:マイナス効果

	投資額	コスト	効果額
①公害防止コスト	0	50,714	0
②地球環境保全コスト	0	0	△2,671
③資源循環コスト	0	20,887	45,805
④上・下流コスト	0	14,188	△5,401
⑤管理活動コスト	0	525	0
⑥研究開発コスト	0	0	0
⑦社会活動コスト	0	790	0
⑧環境損傷コスト	0	0	0
有価物等の売却額	—	—	101,720
合計	0	87,104	139,453

12. 緊急事態の訓練

- ◎火災・爆発・地震・台風などの緊急事態に対応するため訓練や設備の点検を行っています。
- ◎自衛防災組織の編成し、役割を点検するため訓練を行っています。

【防災・消火訓練】



13. ボランティア活動

- ◎5月30日をゴミゼロの日と定め、会社周辺の「ゴミ拾い」を実施しました。その結果一般ゴミ8.2kg 空缶/ビンゴミ5.5kgのゴミを回収しました。
- ◎また、会社周囲の市道についても、定期的除草・草刈・ごみ拾いをして工場周辺の美化に努めています。

